

令和 8 年度 愛媛大学社会共創学部  
〔総合型選抜 I〕 小論文

1

【出題意図】

地域の防災・減災活動について、これまで行われてきた活動の問題点やこれから求められる防災・減災活動について議論した書籍の内容を基に、これまで行われてきた活動の変え方や今後のまちづくりのあり方について問うています。

高校生レベルの一般常識、文章の読解、論点を絞って文章をまとめる能力、地域課題の解決への関心の高さ、以上の4点を評価することを意図しています。

【解答例および出題意図】

問 1 (解答例)

防災・減災 3.0 の特徴は、すでに住民が主体的に取り組んでいる活動に織り込むことで住民の負担を軽減でき、企画段階から住民が参加できることにある。また、偶然性にまかせようとしたり助ける人と助けられる人を峻別して考えず、いったん「助ける-助けられる」関係を思い切って封じてみたりするという特徴もある。(147 字)

問 2 (解答例)

様々な人々を対象とする際、何かを包摂するたびに、何かが排斥されるため、原理的にはすべてを包摂することは不可能であり、時間の導入、空間の移動、人々の個別性など補助的な議論がなければ收拾が付かないため。(99 字)

問 3 (出題意図)

世の中の変化に対して柔軟に対応する方法についての経験や知識を持つか、それを文章化する力があるかを問うている。

問 4 (出題意図)

これからのまちづくりの望ましいあり方について、自分の考えを論理的に字数内に文章化して表現する能力などを問うている。